



## 木本農園

### 経営概要

代表者：代表 木本 慎悟 氏

所在地：佐賀県神埼市

従業員：14名（正社員1名、パート、アルバイト13名）

うち外国人材10名（男性2名（技能実習）、女性8名（うち特定技能4名）

※令和7年1月現在

栽培品目：小松菜、水菜 2.5ha（95棟）



木本代表は福岡県の「師匠」農家での研修を経て就農、平成25年に会社を設立。当初は水菜の栽培が主流であったが、昨今の猛暑による生育状況の悪化から出荷できない時期が連続して発生し、販売額の減少に陥った。そこで、この打開策として、3年程前から水菜よりも暑さに強い小松菜の栽培に踏み切った。その後、徐々に小松菜の栽培面積を増やし、現在は両者の生産量がほぼ同程度までに達したが、今後も小松菜栽培へ比重を移していく意向である。

「自然を活かす」ことを大切に、農薬や化学肥料に極力頼らない野菜作りを心がけ、当園の野菜が毎日の食卓に健康と幸せをもたらすことを願いながら、日々、野菜作りに励んでいる。

## 外国人材の受入れについて

### ➤ 受入れのきっかけを教えてください。

就農する前に、研修先としてお世話になった福岡県の農家の師匠が、当時から外国人材を雇用されていたことから、外国人材の受入れはごく自然なことだと認識していました。そのため、約10年程前の平成26年から27年頃にかけて、福岡県の師匠の紹介で監理団体や登録支援機関を通じて受入れを開始しました。

最初は2名の受入れから始め、現在は10名が従事しています。全員がフィリピンの出身です。従業員がそれぞれの事情で帰国することになれば、また新たな人材を受入れるため、年に1~2回はフィリピンへ面接に出向きます。今後は結婚のために1名が帰国することとなっていますので、4月からは新たに1名を受入れる予定です。従業員の受入れは出身国での面接の外、国内の他の農家から移ってくる者もいます。

### ➤ 外国人材の業務内容や受入れの効果はどのようにですか。

葉物野菜は作業工程が少ないメリットを活かして、「誰でもできる農業」を目指しています。そのため、種蒔き、水やり、収穫などの各段階での作業を明確化し、しっかり指導をした上で従事してもらっています。そして、小さな工夫と丁寧な作業の積み重ねが作業効率を上げるとともに、高品質と高い生産量を実現すると信じています。

各従業員は経験や適性に応じて、作業現場全体の責任者、栽培の責任者、電話対応など、適材適所で作業をまかせ、1か月先までの作業を見越して配置しています。

また、受入れについては、ハローワークなどを通じた日本人の雇用よりも、現地のフィリピンで、「働きたい」と「雇用したい」をマッチングさせることで、安定した雇用を確保できていると感じています。



木本代表

## 受け入れ農家としての取組(教育・研修・環境整備)

### 外国人への教育の取組などについて教えてください。

月に1回、神崎市が主催する「日本語学校」で学習してもらっています。また、大好きなアニメやYouTubeを活用して個々に学習している者もいるようです。

また、トヨタの「カイゼン」という問題解決の手法を取り入れて、従業員が自ら作業の改善点を見出し活発な意見交換を行うことで、労働意欲の向上や自己研鑽につなげています。

自動車やトラクターなどの運転免許の取得については、在留希望などを考慮しながら、若い人材への期待も込めて支援しています。

働く環境の整備としては、作業場近くにトイレを設置したり、休憩室を整備したりしています。また、夏場の暑い中でも可能な限り涼しい環境で作業ができるよう、袋詰め機械導入の検討などを進めています。



### 生活に関する支援などの取組を教えてください。

従業員の住居は、持ち家と借家を貸与しています。1部屋に2名で生活し、家賃は1人当たり15,000万円/月です。普段は相部屋の従業員同士と一緒に食事を作ったりしているようですが、誕生日会やクリスマスなどには全員が集まる機会を作っています。

地域では、年に数回行われる公園や公民館の掃除などに皆なで参加し、近隣の方々にも可愛がってもらっています。

また、私の長男が高校で野球部に所属していることから、皆なで野球の応援に出かけたり、地元のプロバスケットチーム「佐賀バルナーズ」の観戦に出かけたり、弊社の事務所敷地内の広場で長女も参加してバレーボールを楽しむなど、和気あいあいとした雰囲気です。



スポーツ観戦



誕生日会



書初めにトライ!



もちつき体験

## 今後の事業展開

### 今後の展開や取組について教えてください。

来年度は佐賀県の補助事業を活用してハウスの棟数を増やす予定です。規模拡大に伴い外国人材も増やし、経営を発展させることによって従業員の所得向上にもつなげていきたいと思っています。

また、義父が米や麦を9ha程栽培しているので、その継承も視野に入れていきます。

将来は私の経営を子ども達のうちの誰かが受け継いでくれれば良いと思っていますが、家族でなくとも、外国人材の後継者でも良いと考えています。

そして、これからも食の安全と美味しさを追求し、皆様の生活を支えていける農園でありたいと思っています。

